

【基調講演 4】

テーマ「宇宙と地域を活性化する新しいサービス創出について」

講演者：高山 久信

(一般社団法人おおいたスペースフューチャーセンター 専務理事)

【講演の概要】

- ・宇宙産業について、国際航空連盟が高度100kmから上を宇宙と定義している。宇宙を3つのシステム（ロケット、衛星、アンテナなどの地上システム）に分けて、データの利活用を主に産業が拡大してきている。
- ・打上サービスはJAXAではなく、民間の三菱重工が行っている。データプラットフォームも民間の色々なプレーヤが製作、宇宙産業に参入。
- ・データ利活用も小さなものでは、大学生がPC1台で起業するケースもある。現在は40兆円の規模であるが、ハードウェアは10%のみで他は衛星サービスやそれを使ったエンターテインメントなどである。右肩上がりです。2040年には110兆円に上る。宇宙製作、ビジネス関係はほとんど全体の省庁が絡んで、予算をつけている。
- ・今後20年を見据えた10年間の国の基本方針を描いた宇宙基本計画を策定。令和4年度の宇宙予算は4800億円で10%ずつ上がっている。
- ・宇宙港選定での大分県の強みは「3000m級の滑走路」「長い歴史のある地域産業：機械産業が多いため、部品調達がすぐできる」「豊富な観光資源：衣食住やリフレッシュできる環境が整っている。」
- ・宇宙産業は今後色々と広がりを見せている。人工衛星、ロケットだけでなく、AI、3Dプリンタ、宇宙服、芸術文化など様々な分野の方が動き始めている。
- ・暮らしのなかで使われる宇宙利用分野は「通信・放送分野、気象・地球観測分野、衛星測位分野」が今後発展する。例えば、DXで地上の情報と衛星から入手する情報を組み合わせて、新たな使い方を模索する動きが出ている。

- ・衛星データを使って、土地の隆起も分かるため、例えば都市開発などにも活用できる。スペースポートによる物流拠点になることで、大分県では5年間で100億円の経済効果を想定。このように、スペースポートを起点に新たな街づくりをして、宇宙の玄関口に、大分を盛り上げていきたい。